

【実施署：中信森林管理署】

沿岸域の環境改善のための1つの手段として林業に興味を持ち、実際に職場へ行ってその業務を体験したいと思い、今回のインターンシップに参加した。インターンシップで行う活動内容を見ると、やったことの無いことばかりで不安だったが、中信森林管理署の皆さんが優しく、丁寧に教えて下さったので、焦ることなく安心して取り組むことができた。

今回のインターンシップでは、中信森林管理署の業務内容についての講習、全林毎木法による森林調査、美ヶ原の美化活動と鉦山植物保護の呼びかけを体験した。これらの活動は大学では経験することのできない貴重な体験だった。

業務内容についての話では、例えば間伐がどのように行われているかを、僕にもわかるよう丁寧に説明してくれた。人が木を切ってトラックで運ばれると思っていたが、現在は人によって伐採されることは少なく、ハーベスターという機械で伐採すると、そのまま木を切り落とし、一定の大きさに切り分け、それらをフォワーダーによって集積し、それらをトラックで運ぶとのことだった。

森林調査は初めての連続だった。最初に、森林内に4つのプロットを打ち、50mの正方形を4つ作った。この作業を測量器具を用いて行うのだが、傾斜のある藪の中での作業のためセッティングが非常に難しかった。しかしながら、管理署の皆さんはその作業をあっという間に行ってしまう。その現場のプロの技術には脱帽した。次に、その枠内にあるヒノキの直径や高さ、分布を調べた。林業を思い浮かべたとき、このような業務があるとは思わなかったため、この調査を実際に体験したことで林業をいうものをより正しく理解することができた。

美ヶ原での活動では、その高原の美しい風景とゴミの少なさに驚かされた。高山植物も沢山あり、非常にきれいだった。初めてみるものも多く、僕が花々の名前を尋ねるたび、管理署の方々が教えて下さったのでありがたかった。また、そこでの美化活動は40年ほど続いており、その結果登山者のマナーも向上し、ゴミが減少し、現在このようなゴミのほとんどない環境を得られたとのことだった。環境保全について日頃考えているが、保全活動が持続的に行えるかどうか、そして、その活動による効果が本当にできるかどうか半信半疑であったが、美ヶ原の美化活動の事実は、それが可能かもしれないということを示してくれた。

これらのインターンシップの活動を通して、おぼろげながらも林業の全体像が頭の中で描けるようになった。林業は木を切るだけではなく、そのための森林調査も行い、それらのデータをまとめ書き下ろす。他にも森林や貴重な動植物のための保護活動や獣害の対策等々多くの業務がある。インターンシップを終え、林業に関して学ぶことができた今、沿岸域の環境改善の1つの手段としてだけでなく、林業に対する純粋な興味が芽生えた。今後は海洋のことに加え、林業についても学び、林業関連の職業も視野に入れて就職活動に取り組んでいきたい。